

「戦国の世から天下統一へ」

多面的・多角的に社会的事象を捉え、根拠をもとに説明・議論し、考えを深める授業

二本松市立杉田小学校 山本 雄太

1 単元によせる授業者の思い

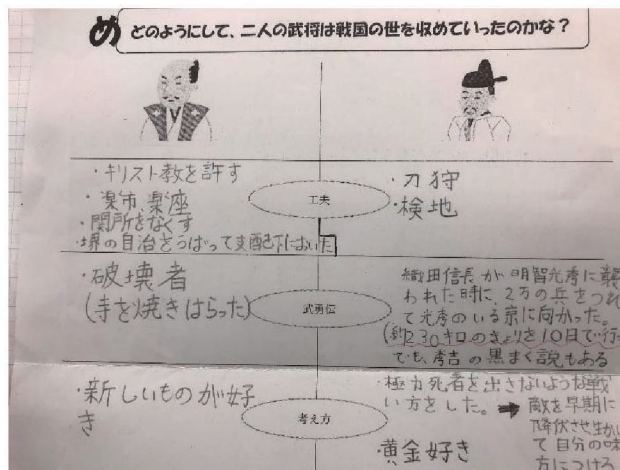
本学級の児童は、自分が興味を持ったものについて調べ、それを新聞やレポート等の形でまとめる学習を多く経験している。そのため、課題意識を持って調べ、資料を活用して社会的事象をまとめることはできる。

しかし多面的・多角的な視点で調べたり、考えたりすることが少なく、まとめたものからは偏った資料や考えが見受けられる。また、書くことは得意であっても、表現・交流に対しては消極的で、話し方や聴き方、深め方には課題が見られる。

そこで本単元では、織田信長と豊臣秀吉の生き方から、全員に共通する単元を貫く「問い」と個人の「問い」を立て、解決を目指して調べ、説明したり質問したりする活動を通して、考えたことを自信をもって表現できる力を身に付けさせ、説明・議論することで考えが深まるよさを実感させたい。



してから調べ学習を行った。その際、どちらか一方の人物を調べるのではなく、比べて考えられるように、ワークシートに書き込めるようにした。押さえておきたい事象は全体で確認し、資料集やインターネット、本などを使い、さらに詳しく調べ、天下統一に向けて行った工夫、武勇伝、その人物の考え方など項目ごとに記入させた。



授業の最初には、根拠をもって説明・議論できるように調べたことを全体で振り返り、どちらの功績が大きかったかという議論へと展開させた。

2 授業の実際

視点Ⅰ 単元を通した学習課題の設定

前時までに調べた二人の武将の政策などをもとに、どちらがより天下統一に向けて働きが大きかったか（活躍したか）という二項対立型の課題により自分の立ち位置を明確にし、根拠を持って説明、議論できるようにする。

まず単元導入時に、「織田と豊臣のどちらが天下統一に向けての働きが大きかったか」という単元全体の学習課題を設定し、児童自らが立場を選択し、意欲的に調べ学習を行えるようにした。

次に、選んだ人物や個人の「問い」について確認

視点Ⅱ 考えを深めるための表現する場の設定

- ① 多様な考えに触れ、考えを深められるように、ワールドカフェ方式で話し合いを行う。



生活班での議論
→ホストを残して
違う班で議論→元
に戻って新しい情
報等の共有、報告
を行った。

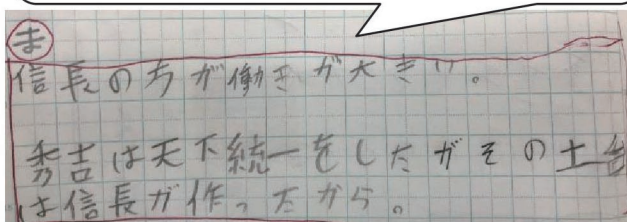
話し合いを生かし、どちらの働きが大きかったか、最終的には自分で判断する。



② 話し合い後に自分の考えをまとめる時間を確保し、他者や自分の考えと対話し、考えを深められるようにする。

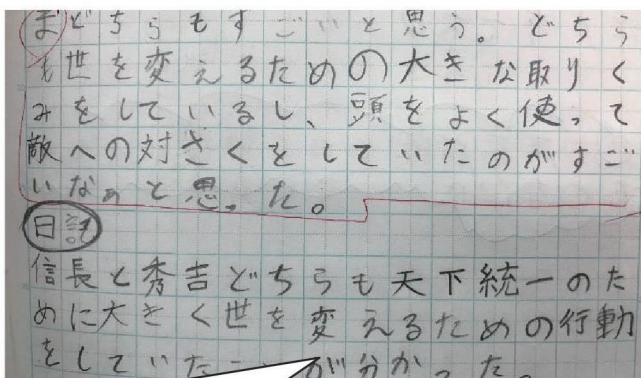
「織田と豊臣のどちらが天下統一に向けての働きが大きかったか」について、ワールドカフェ方式で議論を重ねた。様々なメンバーで複数回話し合いをする機会を作ったこと、事前に調べ学習をしていたことや授業の最初に二人の武将の功績について振り返りをしたことなどにより、安心して伝えることができていた。その話し合いの様子からは、目指す児童の姿が見られた。

話し合いを通し、天下統一の土台を築いた信長の功績を確認し、自分の考えをより確かなものにした。



視点Ⅲ 表現のよさに気付く振り返り

振り返りの視点をもたせて、社会日記を書く。振り返りでは、「わ(わかったこと)・た(たのしかったこと)・が(自分・友達のがんばったこと)・し(しりたいこと)」の視点を記入する。



本時の学習では、「分かった」の記述が多く見られた。二人の武将の功績が理解できていた。

3 子どもの変容

どんなに難しい問題でも、誰かと協力し合えば、解決できると思う。



どんなに難しい問題でも、前向きに取り組むことができる。



〈考察〉

「どんなに難しい問題でも、誰かと協力し合えば、解決できると思う」という質問では、肯定的な回答が64%から71%に増加した。また、「どんなに難しい問題でも、前向きに取り組むことができる」児童は7人から倍の14人に増えている。これらのことから、仲間とともに協力して課題を解決してきたことで、表現することへの抵抗が少なくなり、説明や議論をすることで考えが深まるよさを味わうことができたのではないかと考える。

4 研究のまとめ (○成果●課題)

【視点Ⅰ】

- 単元全体の学習課題を解決するため、より多くの社会的事象を知ろうと資料集や本、インターネットで意欲的に情報収集していた。
- 多面的・多角的に捉えるために、対象の人物を別の人物や時代と比較する必要があると感じた。

【視点Ⅱ】

- ワールドカフェ方式によって多様な考えに触れ、多面的・多角的な視点から説明・議論ができた。また、二項対立型の課題であったため自分の意見をもちやすく、自信をもって表現できた。

【視点Ⅲ】

- 本時の振り返りからは「分かった」などの学習に対する肯定的な記述と考えの深まりが見られ、アンケートでは自己肯定感の高まりが見られた。
- 自分や友達よさや力の高まりを感じる記述が見られなかった。振り返りでは、「自分や友達よさ」など具体的な視点の提示が必要であった。

実際の指導案はこちらへ▶

